

電力提供取り組みPR

電動リフトから無償で

【宮城】協和運輸倉庫(高橋大輔社長、仙台市宮城野区)とイーコース(菊竹玉記社長、東京都中央区)は

5日、仙台市で開かれた「仙台防災未来フォーラム2022」に展示ブースを設け、電源ドナーで電力を無償提

供する取り組みをPRした。

電源ドナーはイーコースが手掛ける災害時の電源情報提供サービスで、東日本大震災で被害を受けた協和



女が多数来場する中、両社の展示コーナーでは多くの人々が足を止め、熱心に説明を聴いた。ブース訪問者らは「EV(電力を無償提供する取り組みをPR) (佐藤係長)と菊竹社長(菊竹社長)」

運輸倉庫がその教訓を生かし、地域貢献の一環として普及に努めている。災害時に停電が発生した際、通常の倉庫業務で使用する電動フォークリフトを非常用電源として無償提供する取り組みを、2021年から両者連携でスタートさせた。

気自動車)のように電動フォークリフトからも電力が使えるとは知らなかった」「参加企業が増えればもっと安心」「震災から10年経って、良い仕組みができた」と感想を述べていた。

会場で説明を行った協和運輸倉庫営業課の佐藤克弘

係長は「震災経験者として、ライフラインの大切さは身に染みて分かっている。一人でも多くの人に使ってもらえるよう、他の倉庫にも広がって欲しい」と期待を込めた。イーコースの菊竹

社長は「私は山形県の出身だが、震災時に何も力にな

れなかった。無償で提供することが大事で、協和運輸倉庫さんの力を借りて地域貢献できれば幸い」と話した。

電源ドナーは今後、電動フォークリフトの実車からの給電デモンストレーションも計画中だ。(今松大)